

氏名	河野 玲華
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 3301号
学位授与の日付	平成11年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	CHARACTERISTICS AND VARIABILITY OF VERTICAL PHORIA ADAPTATION IN NORMAL ADULTS (正常成人における垂直方向のPhoria Adaptation の特徴と 変動性)
論文審査委員	教授 増田 游 教授 阿部 康二 教授 松井 秀樹

### 学位論文内容の要旨

垂直方向の視差ずれに対する Phoria Adaptation を検討するために、21~67歳（平均37歳）の35名の正常被験者を対象に、3 prism diopters (1.65°) のプリズムを用いて垂直方向に視差ずれを惹起させ、ミラーハプロスコープを使用して融像除去眼位を計測し適応度を検討した。全例に Phoria Adaptation が観察され、利得の平均（±標準偏差）はプリズム装用後10、30、60分後で、それぞれ、 $0.78 \pm 0.28^\circ$ 、 $0.96 \pm 0.26^\circ$ 、 $1.02 \pm 0.30^\circ$ であった。測定の実現性（95%信頼区間）は $\pm 0.24^\circ$ 以内であった。利得には個体差が認められた。Phoria Adaptation と年齢、垂直方向の融像幅、斜位の程度、および検査開始時刻との関係を検討した結果、融像幅と Phoria Adaptation の利得との間に正の相関（10分後、60分後  $p < 0.05$ ）、年齢と Phoria Adaptation の利得との間には負の相関（60分後  $p < 0.01$ ）がみられた。垂直方向の Phoria Adaptation は調節性幅横の影響が少なく再現性が良好であった。したがって、この方法は Phoria Adaptation 解析に有用と思われる。

### 論文審査結果の要旨

眼科疾患における異常眼球運動による視差ずれへの補正機転「Phoria adaptation」測定法に、コンピューター制御した、ハプロスコープを用いた新しい垂直方向の同adaptation測定法を考案し、これを使って健常者35名で測定し、その結果について検討した。

今までの自覚的眼位検査に比べて、本法は客観的評価法であり、再現性も良好であった。また同adaptationの利得が年齢と共に低下した。かかる垂直方向のphoria adaptation機能を評価する際、年齢や融像巾が関連因子として考えられ、本法による測定が斜視の病態解明の一助となり得ると考えた。

以上、本論文は、斜視の臨床に有用な、新しく改良された検査法であり、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。